

あうみネット



BIWA CHAN

淡海の市民活動・ネットワーク情報交流誌
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi

●発行日 / 2010年3月1日 ●発行所 / (財)淡海文化振興財団

No.

73

2010年
3・4月号

特集 ● 淡海とびっくす

地域づくりフォーラム報告 ～あなたと見つけたい、地域のチカラ～

■NPOさぼーとぼけっと ①

NPO法人の報告義務ってなに？

■市民団体活動紹介 NPOのわッ ⑤

- 特定非営利活動法人 おうみ犯罪被害者支援センター
- 特定非営利活動法人 びわこ豊穡の郷
- 特定非営利活動法人 認知症を学び介護する会ほほえみ

■あうみネット★INFORMATION ⑦



株式会社びわこ銀行様と行員のみなさまから ご寄付をいただきました！

2010年2月16日、株式会社びわこ銀行様と行員のみなさまから、ボランティア活動などの市民活動支援に役立ててほしいと、淡海ネットワークセンターに20,734,017円のご寄付をいただきました。「あうみNPO活動基金」に特別枠を設けて、市民が主体的に取り組む社会貢献活動の支援に活用します。



平成21年度第2回「水辺の楽校」

日時 ● 3月27日(土) 9:00 ~ 13:30
会場 ● 目田川河川公園(守山市立図書館下流100m)
参加費 ● 小学生 200円・中学生以上 300円(幼児は無料)
定員 ● 40名(事前申し込みが必要です)
連絡先 ● NPO法人 びわこ豊穡の郷 TEL: 077-583-8686
※雨天時はプログラムの内容が変更になります

子どもを対象に自然豊かな目田川の水辺で、遊びを通じて人と自然が共存していく大切さを学びます。心豊かな感性や自然環境意識の向上へのきっかけづくりになるようなプログラムで、皆さまのご参加をお待ちしています。



運営委員 VOICE

「きっかけはちんどん屋、出発は市民活動屋台村」

山名朋希
(ひこね市民活動センター 事務局長)



滋賀県立大学の学生時代(2002年)、授業の一環で淡海ネットワークセンターで実施された市民活動屋台村の実行委員会に参加しました。市民活動の会議に参加したのは初めてで、いろんな活動をされている方とお会いしました。

屋台村で何かおもしろいことをしようと考えていた時、ちょうどちんどん屋と劇的な出会いをし、「ちんどん屋をやりたい!」と会議で提案しました。何も知らない学生でしたが、当時のネットワークセンターの職員さんや実行委員の方に助けていただき、ちんどん屋と出会った1ヶ月後には屋台村でちんどん屋をしていました。

現在では、年に50回程度出番があります。ちんどん屋の活動から地域の人々と知り合いになり、現在の仕事にもつながっています。

※運営委員は、市民の意見を当財団の運営に反映するため、公募も取り入れた委員を設置しています。

おうみ未来塾 リレーエッセイ

生活意識で結果を残す

6期生 小寺 實(こてら みのる)
グループ：地域の防災防犯の支援 Commuの介
(こみゆのすけ)

Ohmi Miraijyuku Relay Essay



最近、古代から中世の地域の道(於草津市老上学区)について、遺跡・遺物・痕跡を基とした発表をしました。忘れてならないのは人との絡みで、特にここでは人々の生活との関わりの調査は外せません。

ところで地域の諸種活動は人との関係そのものです。自主防災防犯活動、水環境活動(小学校総合学習支援)、地元の役割(生産組合、寺総代など)などにもこの意識を持ちます。

これらは築くもので受け身では為し難いのは当然です。望んで好奇心を持って参加し周りに接するようにしています。大抵の人は応じてくれ、何等かの収穫に繋がります。

おうみ未来塾とそこで知り合った人々は、単に人脈としてだけでなく、活動の動機を生みバックボーンになっています。

※おうみ未来塾は、地域の課題解決を実践する「地域プロデューサー」が育つ塾です。

●NPOさぼーとぼけっと●

あなたのNPO活動をサポートする情報をお届けします。

NPO SUPPORT POCKET

NPO 法人の報告義務ってなに？

NPO法人は事業報告書等の書類を所轄庁へ提出する義務を負っています。どのような書類を提出する必要があるのでしょうか。そもそもなぜ提出しないといけないのでしょうか。今回はNPO法人の報告義務について紹介し、NPOの情報公開についても考えたいと思います。

■いつ、どんな書類を提出するの？

所轄庁への提出書類は次のとおりです。

●事業年度が終了したとき

毎年事業年度が終了してから3ヶ月以内に、「事業報告書等」(※1)の提出が必要です。また、その事業年度に定款変更をした場合は、さらに「変更後の定款」等が必要です。

●役員の変更があったとき、役員の任期が満了したとき

「役員の変更等届出書」の提出が必要です。

●定款を変更するとき

「定款変更認証申請書」等を提出し、所轄庁(※2)の認証を受ける必要があります。ただし、軽微な事項(※3)の変更の場合は「定款変更届出書」の提出のみとなります。いずれの場合も、登記事項に変更があったときは法務局での手続きが必要です。

■NPO 法人と情報公開

以上のように、NPO法人には所轄庁への報告義務が課せられており、特に定款や事業報告書等は市民に公開しなければなりません。NPO法人がこのような義務を負っている理由は、事業内容等に関する情報を広く市民に提供するとともに、市民によるチェック・評価を期待したものとされています。

事業内容・財務状況等を公開することはもちろん、その内容は求めに応じて誰にでも説明できるものでなければなりません。NPO法人の信用というのは、所轄庁から認証を得ただけではなく、情報公開に基づく信用の積み重ねであると考えられます。

(県民活動課 小寺隆志)

※1 事業報告書等とは、「事業報告書」「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「前事業年度の役員名簿」「前事業年度の社員のうち10人以上の者の名簿」です。

※2 所轄庁とは、
滋賀県で認証を受けておられるNPO法人は、滋賀県県民活動課：077-528-4633
内閣府で認証を受けておられるNPO法人は、内閣府市民活動促進課：03-3581-9308

※3 軽微な事項とは、「所轄庁の変更を伴わない事務所の所在地」「資産に関する事項」「公告の方法」です。

地域づくりフォーラム報告

～あなたと見つけたい、地域のチカラ～

日時：2010年1月31日(日) 11:00～17:00

会場：県民交流センター（ピアザ淡海）

地域や人々をつなぐ映像、地域サロン、地域ブランドを切り口に地域にある“チカラ”を見つけて、地域を元気にしてこられた事例から、みなさんと一緒に、足元にある地域づくりのためのタネを見つけないと実施したフォーラムについてお伝えします。

石田達也さん
プロフィール

1963年1月2日、宮崎県生まれ。1995年より宮崎映画祭を企画・運営する、宮崎映画祭実行委員会の初代事務局長に就任。ボランティア活動の限界を感じ、宮崎映画祭実行委員会の有志が中心となって、NPO法人宮崎文化本舗を2000年に設立。初代事務局長に就任。芸術文化のまちづくりと、ボランティア相互のネットワーク化を柱とした事業を中心に、様々な活動を行っている。



基調講演

地域づくりは人づくりから

NPO法人宮崎文化本舗 代表 石田 達也さん

NPO法人宮崎文化本舗は二〇〇〇年十月に産声をあげました。柱となる事業は、芸術文化の発信基地として運営する常設映画館事業と市民活動団体等の事務局を代行する事業の二つです。

映画に関連する事業では映画上の他、ロケの誘致やエキストラの手配など、作り手と見る側をつなぐ事業に取り組んでいます。事務局代行事業ではイベント等にかかるチケット販売、広報や後援依頼、関係機関との調整など幅広く対応しています。

市民活動をサポートする事業として取り組んでいるのが「NPOハウス」です。市民活動団体へ、一部屋一万五千円程度で貸しています。この建物は、空きビルに

なっていた宮崎県企業局の独身寮を県と交渉して契約し、管理組合を組織して、私たちが代表になり管理しています。指定管理者制度で四つの施設の管理運営も行っており、当初八千万円程度だった事

業収入は、今年は約三億円に成長し、スタッフ五十五名が働いています。

事務局代行などをとおして、私たちが培ってきたものは、人や団体とのネットワークと市民活動の人、モノ、情報をバックアップするノウハウです。そして、「足元

を掘れ、そこに泉あり」の言葉どおり、地元の人、歴史、建物、自然環境など、自分たちの足元に多くの資源があることに気づいてきました。

その先例が「綾の照葉樹林」です。今、宮崎では貴重な「綾の照葉樹林」を世界遺産にしようとして運動が展開しており、私たちが「綾の森を世界遺産にする会」事務局

をやっています。この綾町はかつて林業が衰退し、人口四千人の過疎の町でしたが、当時の町長が国による照葉樹林伐採計画をストップし、昭和五十九年に自然と人間の架け橋にと森の中に吊り橋をかけました。そして「森の恵み」を

テーマに地域をプロデュースし、有機農業と工芸家の誘致などを進め、現在では年間百万人が観光に訪れ、移住者も増え、人口七千人を超える町になっています。

地域づくりには、普段見逃していた資源を見いだし、地元の人に興味を持ってもらう仕掛けをつくり、外へもアピールできる、地域をプロデュースする「人」が重要です。しかし、地域をプロデュースするのは片手間ではできません。

責任を持って地域プロデュースするためには、事業として収益を出し、継続していく仕組みづくりが必要です。また分野を超えた様々な団体とのネットワークも事業が広がり、成長するために必要

です。さらに継続のためには、後継者の育成が重要です。次に続く若者が取り組めるよう、収入源を確保していくことが大切です。若者には責任と権限を与え、現場を

まかせ、現場で学び、失敗しても、またやろうと思わせていき、次の地域づくりを担うリーダーを育てたいと思っています。

まかせ、現場で学び、失敗しても、またやろうと思わせていき、次の地域づくりを担うリーダーを育てたいと思っています。

分科会

3 地域と人をむすぶ地域ブランドのチカラ

■事例紹介①

有限責任事業組合ひこね街の駅
小杉共弘さん(駅長)



彦根市の「花しょうぶ通り商店街」活性化のため、江戸時代、寺子屋だった空町家を改装し「ひこね街の駅『寺子屋力石』」として学びをテーマに人々が集う場を開設。陶芸教室や手作り甲冑教室など多彩な現代版寺子屋を展開した。その中で企画された談話室「それぞれの彦根物語」での商店街と大学、NPO、マスコミ、市民の話し合いが形となり「LLPひこね街の駅」を結成。「しまさこにゃん」「いしだみつちゃん」のキャラクターライセンス事業や、第2の街の駅「戦國丸」の開業へと繋がっていった。特に、新しいまちの魅力を発信していくためには、「アート」「クラフト」「サイエンス」という視点が非常に大事だという気づきについて話があった。

■事例紹介②

kikito 湖東地域材循環システム協議会
山口美知子さん

「びわ湖の森」を元気にするため、今ある地域の資源を循環させるシステムの構築を目指して活動している。地域に地域で伐採した木材を安定供給していくことに加えて、小径材を活用したkikito paper、森林のCO2吸収認証、kikito塾の開催などに取り組んでいる。



いわゆる林業という難しい分野で、小規模でも事業として成立する形をどのように作っていくのかということ、NPO法人やボランティア、林業者、企業と連携しながら、プロの力を活かしながら取り組んでいるという報告をいただいた。

分科会

4 地域と人をむすぶ NPO のチカラ

■ワークショップ

地域と人をむすぶ NPO のチカラ

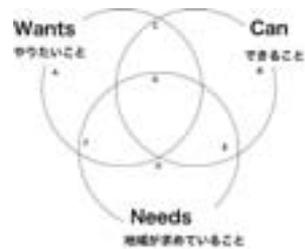
ファシリテーター 赤澤清孝さん

(NPO法人ユースビジョン代表/淡海ネットワークセンター運営会議委員)

地域と人を結びつけるために、自分たちのNPOに必要なチカラは何か。また足りない力を補うために、誰にどのような協力を求めるのかを考え、活動のレベルアップを図るワークショップを行った。



参加者が自己紹介をしたあと、「NPOが地域づくりに果たす役割」というテーマで講義が行われ、NPOは地域づくりに、地域の人の力をどのように活かしていくのか、総括的に自分たちの役割を考えてみようという話があった。その上でNPOの活動を発展させていくための考え方をワークショップを通じて整理。具体的には、今取り組んでいる事業とこれからしたい事業を列挙し、それを「やりたいこと」「地域が求めていること」「できること」という3つの円に書き入れていった。そして、それぞれの事業の段階、



位置づけを確かめるワークを行った。

最後に、それぞれの状況をグループの中で発表し合い、今の力ではできないことがあるとき、足りないものや力を獲得するためにどうすればいいのかを考えた。

そして、どんな人や資金、ものが足りないのか、それを補うためには誰にどんな働きかけをすればいいのか、という課題を分かち合った。

情報収集も大切だが、支援を集め、自分たちに必要な力をつけていくためには、自分たちのニーズを発信することも必要ではないか、ということを確認する分科会となった。

■NPO法人五環生活

五感+環境+暮らしをコンセプトに、環境に関わる様々なライフスタイルを楽しむながら体験し、社会に定着させていくことをめざしています。自転車タクシー事業、輪の国びわ湖事業、まっくらカフェ事業、酒造り体験など。

■しなやかシニアの会

会員相互の「地縁」「知縁」を最大限に活用し、情報を集め発信。活動拠点・事務所とする町家を借り、自主活動やイベントなどの文化活動を充実、シニア世代の活力を生む場所作りを目指す。

■SHIPS 多文化共生支援センター

在住外国人が地域において安心して生活できるよう多文化共生社会の実現を目指す。そして誰もがほっとできる居場所作りを心がけている。

■しが外国籍住民支援ネットワーク

外国籍住民の人権を尊重しながら、地域住民が助け合うことが不可欠。県内民間団体等のネットワークで様々な情報や意見を集約し、関係機関と連携して外国籍住民の生活支援活動を行っている。

■水釜夢の郷委員会

水田アートを活用した環境にやさしいCO2を吸

収する広告に挑戦。スポンサー料を地域活性化資金として活用し地域の振興、CO2の削減に協力。

■LLPひこね街の駅 上記参照

■kikito 湖東地域材循環システム協議会

上記参照

■ひょうたんからKO-MA 上記参照

■NPO法人青山まちづくりネットワーク

NPOを中心に、ボランティア団体と地域住民が協力してまちづくりに励んでいる。

■NPO法人碧いびわ湖

滋賀の「せっけん運動」を受け継ぐNPO。市民の力で持続する環境事業を行う。今後は「住まいづくり(エコリフォーム)」にも取り組む。

■子どもミュージアムをつくる会

「楽しく遊んで 生きていく知恵を」をスローガンに子どもたちに色々な体験を提供。

■滋賀ボランティアセンター

(滋賀県社会福祉協議会)

県内のボランティア・市民活動の相談、情報提供、活動者の交流の場の提供、コーディネーターの研修等を実施。

■(財)滋賀県国際協会

国際感覚に優れた人づくり、多文化共生の地域づくり、国際交流、国際協力、多文化共生の活動が活発になる環境づくりに取り組んでいる。

■男女共同参画センター G-NETしが

研修・講座や活動交流事業など各種事業を実施。県民等による地域課題解決に向けた主体的な取り組みを支援。

■滋賀県環境学習支援センター

環境学習を推進する拠点として開設。環境学習に関する情報提供や相談業務、ネットワークづくりなどを通じて、県民、地域団体・NPO、学校、事業者、行政等の取り組みをサポート。

■(社)比良里山クラブ

①しそジュースの商品化②里山つき貸し農園 L-farm比良。年間2000円という低価格で借りられる農園。③森林資源の活用

■NPO法人絵本による街づくりの会

絵本で子どもの笑顔があふれる街に、という思いで活動。内容は自然体験教室、昔話や絵本講座の開催、出前おはなし会やコンサート開催など。

分科会

1 地域と人をむすぶ映像のチカラ

■事例紹介①

ひょうたんからKO-MA
藤田知丈さん

地域プロデューサーズ「ひょうたんからKO-MA」はおうみ未来塾から生まれたまちづくりのシカケ人集団。2007年4月、典型的な農村集落である近江八幡市島町の老人クラブメンバーらが、約50年ぶりに「ほんがら松明」を復活させた。その一部始終を追った本格的なドキュメンタリー映画を、若手映像作家・長岡野亜監督とともに製作し、次世代への祭の継承に一役買った。また、2008年からは、近江八幡のお年寄りの人生の喜怒哀楽を通じて地域・文化・人・歴史を紡ぎ出す、市民参加型映画づくり企画「遺言プロジェクト」を継続中。映像を地域づくりの道具として活用する取り組みについて紹介された。



■事例紹介②

「ブラジルから来たおじいちゃん」
監督 栗原奈名子さん



19歳でブラジルに渡った移民1世の紺野堅一さんが、日本で働く若い日系ブラジル人を訪ねる旅を追ったドキュメンタリー映画『ブラジルから来たおじいちゃん』を製作。92歳という高齢にもかかわらず毎年来日している紺野さんが「いったい日本で何をしているのか知りたかった」ことが映画製作のきっかけとなった。製作の過程で、滋賀や神戸のブラジル人支援団体にアドバイスを仰いで、ポルトガル語字幕をつけるなど、地域の現状に即した作品になるよう努めた。さらに完成した作品をそれらのコミュニティで上映することで、外国籍住民と日本人の間に対面のコミュニケーションが生まれ、日系人との相互理解が深まったという話があった。

分科会

2 地域と人をむすぶ地域サロンのチカラ

■事例紹介①

NPO法人日吉台の福祉を語る会あじさいくらぶ
中井まりえさん(理事長)
住岡一枝さん(事務局長)

この地域で長く住み続けたいと地域福祉の勉強会からスタート。いつも誰でも集まれる場として、2002年に「あじさいの家」という拠点を開設。地域の中で高齢者から子どもまでが集うひとつの交流スペースが完成し、憩いの場になっている。「人と人が出会う交差点」というキャッチフレーズのもとに、週2回火曜・金曜にコミュニティカフェを開催。その中でパソコン教室やさわやか体操、歌声広場などを実施している。その他カルチャー倶楽部、ミニリサイクルショップなども開催され、高齢者と若い人との多世代交流に加え、男女熟年層の交流が活発化している。無理のない活動をみんなで考えながら作り上げている、と報告された。



■事例紹介②

NPO法人とよさとまちづくり委員会
北川稔彦さん(代表)



豊郷町と近隣の地域住民が集まって、これからの地域について考えることを目的に組織された委員会。豊郷町に、空き家になった歴史ある民家が増えていることに着目し、町の活性化のために、空き民家の再生に取り組んでいる。メンバー自らが古民家を改修して地域の人が集うサロンを作り、その2階には改修に参加した大学生などの下宿としてシェアハウスのように運営。非常に合理的かつ地域に密着した取り組みを行っている。家の鍵番番が決められており、地域住民が持ち回りで管理。学生と地元住民との交流も生まれている。また、休耕田を利用したイベントなども開催。地元PRや他地域との交流にも取り組んでいる。

パネル出展団体の紹介



■芸術村 IN 余呉実行委員会

余呉地区で住むことに誇りの持てるまちとするため、余呉のさまざまな資産を活かし、地域の活性化と住むことの喜びを促進するため実施。

■NPO法人 ヒマラヤン・グリーン・クラブ

1993年にヒマラヤで植林活動を開始。学校教育、学校建設、育英資金、保健医療、上下水道建設などの活動を続けている。国内では「伊崎ふれあい

の森」で植林保全活動とカワウの糞害調査を実施。

■NPO法人子育てネットワーク志賀うりぼう

子育て中の母親が中心になって作った子育て支援のためのNPO法人。大津市より委託を受け運営しているついでに広場「にじっこ」を拠点に活動。

■NPO法人日吉台の福祉を語る会あじさいくらぶ

上記参照

■ひこね市民活動センター

ひこね市民活動センターと登録団体の紹介。

■スローフード滋賀設立準備委員会

滋賀のいいものを県内外に発信し、その良さや生産者をよく知っていただく運動を展開。

■みんなのゆうぎ会

①親子の集いの開催②子育て講習・講演・勉強会の開催③「自遊空間」でのママたちのお話し会④子どもの料理教室・ハン教室⑤会報発行。

■在日コリア高齢者支援「ホスの会」

「1日お楽しみ会」に集う1世の方々には故国の歌や踊りを楽しみ、2世、3世による韓国料理で楽しんでいる。韓国留学生や日本のボランティアとの交流を持ち、新たな自分発見もされている。

■ワールドアミーゴクラブ

多様なルーツを持つ子どもたちの教科学習・日本語学習を支援。文化体験を通して相互理解を深める活動も実施。子どもの心安らぐ居場所となるような活動を進めている。

■NPO法人湖南ネットしが

幼児教育支援(キッズスマート)から子どもIT教室、シニア向け携帯電話講習やパソコン教室、外国人市民パソコン教室と幅広く活動。

■たかしまコミュニティFM開局準備室

高島にある資源を結びつけ、発展させるためのツールとしてのラジオ局を立ち上げようと奮闘中。

■アートサポートたかしま

障がいのある方々の創作活動をサポート。併行して地域の子どもたちを招待してのワークショップや地元NPOとのイベントを開催。

■m-fat(モファ・旧守山野外美術展実行委員会)

現代美術を身近な場所に出展させ、みんなが楽しみ交流できるアートイベントを開催。

■湖北移住交流支援研究会

湖北地域への移住・交流居住を活性化するための活動を実施。

話

特定非営利活動法人 おうみ犯罪被害者支援センター(大津)

おうみ犯罪被害者支援センター(OVSC)は今年で設立から十年を迎えます。さまざまな事件や事故がある昨今において、被害者支援に注目が集まっています。いつ、誰が、どのように被害に遭うかわかりません。もし被害に遭い心細く不安な状態のなかで相談や支援があれば、大切なこころの拠り所となるでしょう。そのため、OVSCでは被害者とその遺族や家族に必要な支援が途絶えないよう活動されています。

活動内容は、研修を受けたボランティア相談員による無料の「電話相談」や「面接相談」、警察署・行政機関・裁判所などへ行く被害者に付き添う「直接的支援活動」などです。昨年四月からは滋賀県と滋賀県警が

被害者にいつでも寄り添う支援を

行っていた電話相談業務を受託し、電話回線を一回線から二回線に増やして対応しています。同年七月には滋賀県公安委員会から「犯罪被害者等早期援助団体」の指定を受け、被害者支援活動をする民間団体として大きな期待が寄せられています。



▲大津パルコ前で犯罪被害者週間を広報中

せられています。「被害者に途絶えない、寄り添える支援をしていきたい」と語るのは、事務局長の橋本篤子さん。橋本さんは被害者支援活動員として、研修・実習を積み、被害者と遺族や家族への支援をしてこられました。実際に電話相談の対応をする実習では、最初は不安もあり難しかったと言います。家族間やご近所のトラブルで犯罪に至らないことも、いろいろな角度から親身に対応されています。付き添い支援ではトラブルのある当事者同士が出会わないように、配慮するよう心がけているそうです。

被害者の気持ちを理解し、寄り添った支援はこれからの時代にますます求められる活動となるでしょう。

(おうみネットサポーター 吉田遊介)

特定非営利活動法人 おうみ犯罪被害者支援センター

代表●沖野 良枝 設立●2000年 会員●53名
連絡先●大津市京町4丁目3番28号 滋賀県厚生会館1階
TEL・FAX: 077-527-5310
E-mail: npoovsc@yahoo.co.jp
URL: <http://homepage3.nifty.com/ovsc/>



▲犯罪被害者週間の様子

輪

NPOの わっ WA

和

話

地域や社会を良くしていきたいと
がんばっている市民活動・NPOを紹介します。
興味を持たれた団体に連絡してみませんか？

おうみネットを一緒につくりませんか？

おうみネットサポーターを随時募集しています。
興味のある方はセンターまでお問い合わせください。

このコーナーは「おうみネット」発行をサポートする「おうみネットサポーター」が市民活動団体・NPOの情報提供から取材・執筆までを行っています。

話



●第11回おうみ犯罪被害者支援フォーラムを開催。

輪



●「赤野井湾探検会」でエリ漁を体験する子どもたち。

和



●NPOほほえみの活動風景。トランプ、花札を楽しんでいます。

長く、楽しく、継続。
未来につながる美しい琵琶湖。

「ゲンジボタルが乱舞する故郷の再現」、琵琶湖とシジミに親しむ湖辺の再現を目指す守山市の「びわこ豊穰の郷」を訪ねました。

流域の発展にともない急激な汚染が進行した赤野井湾に対して、水質改善に取り組む住民組織の結成について行政から要望が出てきました。それを受け一九九六年、前身である「豊穰の郷赤野井湾流域協議会」が設立され、二〇〇四年、将来の自立を求め法人



▲昨年7月に開催された水辺遊歩道ネットワーク事業の一環「金森川ワークショップ」。

設立当初から意欲的な取り組みが続く。川水質調査は、赤野井湾流域の百地点で実施され、貴重なデータとなつていきます。また、次世代を担う子どもたちへのアプローチとして、毎年の日に漁船に乗ってエリ漁体験や水質調査を行う「赤野井湾探検会」も盛況です。二〇〇一年から市民が憩い、子どもが

遊び、ホタルが舞う地域のモデルとなる自然の川づくり「目田川モデル河川づくり」で川の再生に取り組んでいます。また、二〇〇四年からは、自家用車を郊外に駐車して専用のバスでホタル観賞地へ向かい、水辺の関心を促す「ほたるパーク&ウォーク」を実施するなど取り組みは多岐にわたります。今年度は守山市がすすめる「水辺遊歩道ネットワーク事業」で地域住民と河川を歩き、川への理解を深めました。北田俊夫理事長は「水辺環境の再生は時間がかかるものです。初期の目的を遂行し、長く、楽しく、元気に継続していくことが大切だと思います」と話してくれました。

(おうみネットサポーター 木村愛子)

認知症になってもみんな笑顔のお友達です。

「NPO ほほえみ」は、家族会「認知症を学び介護する会ほほえみ」の活動を広げるために、二〇〇七年六月に特定非営利活動法人を設立しました。「能登川福祉センターなごみ」を活動拠点として、能登川(地区まちづくり協議会などと連携して、認知症に関する広範な活動をしています。その中心がスリーA方式の脳リハビリです。スリーAとは軽度認知症の療法として考案されたもので、明るくのA・頭をつかつてのA・あきらめないのAの3つAを基本にしています。主な活動は「スリーA教室」を月四回、「家族会ほほえみ」を月一回行い、リーダー養成講座や公開講座を不定期に実施しています。

取材に訪れた「認知症予防スリーA教室」で、山本事務局長がにこやかに迎えてくれました。参加者はスタンプがサポートする中、トランプ、花札を笑いの中で進められていました。勝つても負けても褒め言葉が飛び交ってなご



▲「もみじ太鼓の会」練習風景

やかでした。次は「もみじ太鼓の会」の練習会です。みんないそいそと箱太鼓と竹太鼓の前に座ります。スタンプが交代で、前に張り出した楽譜(特殊な記号で表示)を長い二本の指揮棒で示しながら、掛け声も元氣よく何回も練習演奏をしました。次は茶話会。この日のお菓子は草津のうばが餅です。なごやかな茶話会の後の本日の締めは、生徒Kさん(元音楽教師)のキーボード伴奏で「雪」を歌いました。みんなでハワイトボードに達筆で書かれた歌詞を見ながら歌いました。

誰もが笑って、拍手して楽しむ姿に「スリーA教室」のよさを実感しました。
(おうみネットサポーター 岡崎一郎)

特定非営利活動法人
認知症を学び介護する会ほほえみ

代表●松田順子
設立●2007年
会員●58名
連絡先●東近江市垣見町328 山本事務局長
TEL/FAX : 050-5802-5094



▲NPO ほほえみ前の山本事務局長

特定非営利活動法人
びわこ豊穰の郷

代表●北田俊夫 設立●2004年
会員●個人304人
団体・企業35団体 自治会69自治会
連絡先●守山市勝部5丁目10-25
TEL・FAX : 077-583-8686 E-mail : houjiyou@lake-biwa.net
URL : http://www.lake-biwa.net/akanoi/



▲手作りの看板が光る、びわこ豊穰の郷の事務所前で。



おうみ未来塾11期生募集 あなたも地域プロデューサーをめざしませんか！

◆「おうみ未来塾」とは

市民活動やNPOが地域運営の一翼を担う時代となった今、創造力とネットワークにより、企業や行政だけでは解決できない地域課題に取り組む人が求められています。おうみ未来塾はこうした地域課題に取り組む「地域プロデューサー」が育つ塾を目指しています。

◆おうみ未来塾の特徴

- ①塾生の主体的な参加によるまちづくり
- ②多彩な塾生で構成
- ③地域や活動の現場からの学びと実践
- ④幅広いネットワークの形成

◆システム

受講期間は、16ヶ月(2010年6月～
【基礎実践コース(2010年6月～12月)】
各地でのフィールドワークを中心に、概ね
月1～2回の講義を行います。

【創造実践コース(2011年1月～10月)】
フィールドやテーマにより、塾生数名程度
からなるグループを編成し、現地調査や考
察・実践等の研究活動を行います。活動内
容や進捗等により月2回以上となること
があります。

◆募集定員：25名程度

◆応募資格：18歳以上で、地域社会の課
題解決や市民活動に主体的に取り組む意
欲のある人。

◆受講料と支払月

- 2010年6月 2万円
- 2010年4月 2万円
- ※4回分割払いでのお支払いもしてい
ただけます。
- ※研修地までの交通費や交流会参加費な
どは自己負担です。

◆応募方法と締め切り

受付期間／3月14日(日)～4月15日(木)
次の①～⑥を記入のうえ、郵送、FAX、Eメール
で「淡海ネットワークセンター」までお送り下さい。
①「私が思う地域について 良いところと
悪いところ」について自由にお書きくださ
い。(800字程度)②名前・性別・年齢③
住所④連絡先(電話、FAX、Eメールアド
レス)⑤勤務先または学校名⑥所属の市民
活動団体、市民活動・地域活動の経験

◆募集説明会

- 3月26日(金) 19:00～20:00
米原市米原公民館 研修室3-B
(米原市下多良3-3)
- 3月27日(土) 10:30～11:30
今津東コミュニティセンター会議室3
(高島市今津町中沼一丁目4-1)

○3月27日(土) 14:30～15:30
ピアザ淡海303会議室

(大津市におの浜1-1-20)

○4月2日(金) 19:00～20:00

守山市民交流センター 1階 交流室

(守山市守山二丁目16番45号)

○4月4日(日) 10:30～11:30

ピアザ淡海303会議室

(大津市におの浜1-1-20)

○4月4日(日) 14:30～15:30

アピア研修室B

(東近江市八日市浜野町3-1 ショッピング
プラザアピア4階)

詳しくはチラシが当センターホームペ
ージをご覧ください。

運営のことは一人で悩まないで、専門家に聞いてみよう

事業が大きくなり、自分達だけで決算をするのは不安。有給職員を採用するけど、どうい
う手続きが必要？行政や企業と委託契約をするので、契約内容を見てほしい。活動が大き
くなるにつれて、市民活動団体も弁護士、行政書士、社労士、税理士等からのアドバイスが必
要になる場合もあります。一人で悩まないで、一度相談されてはどうでしょうか。

近畿税理士会	電話 06-6941-6886	NPO 法人税務・会計相談 (無料)
滋賀弁護士会	電話予約 077-522-3238	30分 5250円 (内消費税 250円)
滋賀県行政書士会	電話予約 077-525-0360	行政書士のくらしの常設相談 (無料)
滋賀県社会保険労務士会	電話予約 077-526-3760	総合労働相談所 毎月第2土曜日 (無料)

淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階

■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■http://www.ohmi-net.com

■E-mail:office@ohmi-net.com

開館時間／9:00～17:00 休館日／月曜日・祝日

●情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。

県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、
草津市立まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、
栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、びわこ銀行、滋賀県信用組合、公民館、各地域
環境総合事務所、県民情報室など

編集後記

地域に被害者支援を行う団体があるのは、とても心強いことだと思いました。お話を
伺った橋本さんは、短時間の取材でしたが丁寧に親切に説明していただきました。
ひとの話をきちんと真剣に「聴く」姿勢や温もりある心遣いの大切さを学びました。
(おうみネットサポーター 吉田遊介)

びわこ豊稔の郷・北田会長の「いい川やったらと誇れる川を次世代につなげてい
きたい」という言葉が印象的でした。子どもたちがホタルの光に歓喜できる川が
増えればと願います。
(おうみネットサポーター 木村愛子)

身近な「認知症」問題に女性パワー全開を感じました。明るくのA、頭を使っのA、あきら
めないのAの「スリーA」教室をその効果を確信して、実践している姿に感動しました。「信じる
ものは幸いなり」のこたばを実感した取材でした。
(おうみネットサポーター 岡崎一郎)

4月11日(日) ■大阪市中央公会堂
■18:00受付 18:30開演 20:00終演 前売り ■一般価格1250円～
(前売り状況により、当日券は販売されないこともあります)

大坂 春の陣

秀吉も愛した古楽器アンサンブル
演奏や石田三成、真田幸村の子孫
による「本音トーク」など・・・

前売り券・お問い合わせなど詳しくはWEBで
http://www.packet.ne.jp/mitunari/
(大坂春の陣で検索)

主催 石田三成公生誕450年祭実行委員会

市民活動・人・企業との出会い広がる情報交流誌 「おうみネット」 掲載広告募集中!

- ★発行部数10,000部
- ★県内外の配布先約1,900カ所
- ★1枠(横9.3cm×縦3.5cm)15,000円

詳細は、当センターまでお問い合わせください!

